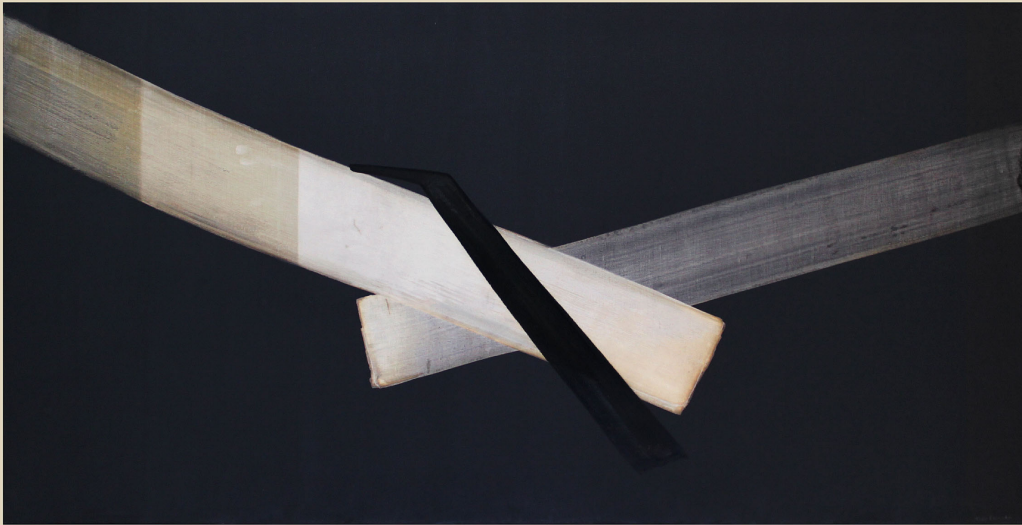


篠田桃紅
夢の浮橋
しのだとうこう
ゆめのうきはし

Toko Shinoda
Bridge Over Fleeting Dreams



会期 2022年6月18日[土] ～ 8月28日[日]

菊池寛実記念 智美術館

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 4-1-35 西久保ビル B1F

<https://www.musee-tomo.or.jp>

プレスレビューのご案内は10頁をご覧ください。

このたび菊池寛実記念 智美術館では、「篠田桃紅 夢の浮橋／Toko Shinoda - Bridge Over Fleeting Dreams」と題し、水墨の芸術家、篠田桃紅の軌跡を紹介する展覧会を開催いたします。

篠田桃紅（1913-2021）は第二次世界大戦後、日本の書の可能性を大きく広げたひとりであり、「墨象」と呼ばれる水墨抽象画の表現を開拓した作家です。1913[大正2]年に大連に生まれ、東京に育つと、幼少よりほぼ独学で書を学び二十代より書家として活動を始めました。やがて従来の書風に囚われない創作に進み頭角を現すと、1956～58 年にかけて単身渡米、当時アートシーンの中心だったニューヨークを拠点に水墨の作品を発表し海外でも評価を高めました。

当館は、創設者の菊池智（1923-2016）と作家との長年の交流が機縁となり、桃紅作品を館内に常設する所縁ある美術館として、これまで二度の個展を開催してまいりました。この度の展覧会では、昨年3月に107歳で逝去した作家を追悼すると共に、改めてその創造の軌跡をご紹介します。展示企画にあたっては篠田作品を取り扱うギャラリーとして40年来、作家と直接交流し、活動してきたザ・トールマン コレクションを監修に迎え、1950年代から晩年までの篠田桃紅の肉筆、版画の他、着物など約50点余の作品をご覧ください。

■ 展覧会概要

展覧会名	篠田桃紅 夢の浮橋 Toko Shinoda Bridge Over Fleeting Dreams
主 催	公益財団法人菊池美術財団、日本経済新聞社
監 修	ザ・トールマン コレクション
○会 期	2022年6月18日（土）～ 8月28日（日）
○会 場	菊池寛実記念 智美術館（〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-1-35 西久保ビル） https://www.musee-tomo.or.jp
○開館時間	午前11時から午後6時まで（入館は午後5時30分まで）
○休館日	毎週月曜日（ただし7月18日は開館）、7月19日（火）
○観覧料	一般1,100円／大学生800円／小中高生500円
○展示内容	1950年代から晩年までの篠田桃紅の肉筆、版画の他、着物など関連作品 約50余点にて構成（会期中、展示替えの予定）。
○関連行事	展覧会会期中、ゲストトーク、学芸員によるギャラリートーク等を開催。

当館では本年度も平常通り事前予約不要にてご観覧いただく予定ですが、ご来館のお客様には、
当館の新型コロナウイルス感染拡大防止対策のご確認とご協力をお願いしております。

お問い合わせ： 菊池寛実記念 智美術館
（担当学芸）高田
（☎03-5733-5131 / FAX03-5733-5132）



■ 展覧会のご案内

(1) 作家のご紹介

篠田桃紅(1913ー2021)は、書と水墨という日本の文化に深く根付いた領域で、「書く」ことを創作の起点としながら、墨による抽象表現を開拓した芸術家です。その仕事は、書、抽象画、版画等の平面作品、建築壁面や劇場の緞帳等の大型制作、また創作の日々や人生観を繊細な筆致で綴った随筆の執筆まで、多岐にわたりました。昭和初期から昨年 107 歳で亡くなるまで、70 年以上に及ぶその活動においては、時代の変化や潮流を捉え新しいものを受けとめながらも、自らの美意識を貫き、現代の水墨の可能性を示し続けた稀有な存在といえます。

幼少より墨に親しみ、書が身近にある環境で育った篠田は、未だ家父長制の強く残る戦前の昭和の時代に、書によって自立することを志し 20 代で独立します。古筆から学び、書家として歩み始めながらも、伝統的な書風を守り書壇の枠組みに自分を沿わせることを好まなかった篠田は、30～40 代にかけ、書の制約からより自由な創作を模索しました。

太平洋戦争後、アメリカ文化の流入と共に価値観が大きく変化し、書においても個性と創意の表出を求める気運が盛り上がるなか、篠田は本格的に水墨による抽象に挑み、頭角を現します。前衛書道とも言われる、日本の水墨抽象画の試みは、1940 年代から興ったアメリカの抽象表現主義の運動にも刺激を与えるものでした。1953 年、「日本の建築と書」展(ニューヨーク近代美術館)に展示されるなど海外で紹介される機会が徐々に増えると、篠田は 56 年から単身渡米し、約二年間の滞在中にボストン、N.Y.、シンシナティ、シカゴなどアメリカ各地やフランスで個展を開催し好評を博します。この異国での滞在制作の経験は、多文化の中で成立し得る抽象表現への省察、作品サイズの大型化、墨という素材に対する理解など、創作全体を深めることとなり、帰国後の篠田は、水墨にあった日本の風土の中で制作し、国内外でそれを発表するという形で仕事を充実させていきました。

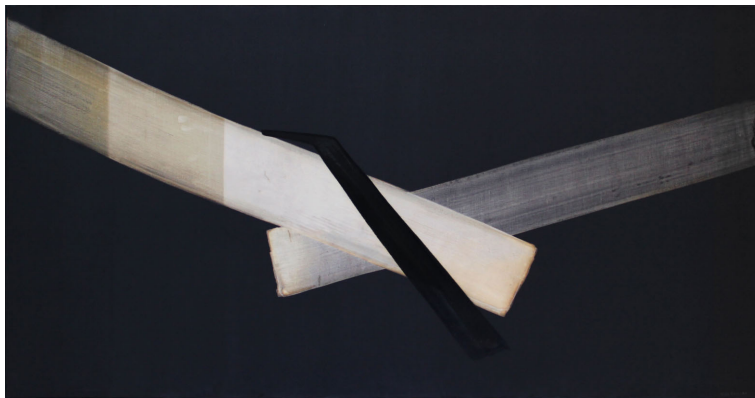
1950 年代以降、ダイナミックな美術の動きの只中で、篠田が国際的評価を高めたのは、墨が持つ歴史性を捉え、書から培った技と鋭敏な感性を基礎にして自らのかたちを明確に提示したからだと言えます。欧米の抽象画が具象と写実の流れから成立したものであるのに対し、篠田の水墨は墨の線と色によって形象を表すという、書が内包する抽象性から発しています。それ故に、その書と抽象は分断されず同じ地平に立つことが可能となり、墨色の濃淡、線の強弱、面や点といった篠田の心身から生まれる墨の痕跡は、地の空間と緊張感のある関係を結び、直接的に作家の境地を伝える独特の強度を備えるのです。

篠田は墨を生涯の創作の基とした理由について、老子の言葉を用いて「墨には明るさも暗さも、強さも弱さも、一切がある。始まりの色で終わりの色である」と言っています。本展では、篠田が書から抽象へと大きく展開した 1950～60 年代から、独自の表現を深めた 90～2000 年代の水墨肉筆の作品を中心に、リトグラフ、エッチングなどの版画作品、篠田自身が好んだ着物等の関連資料を加え、ご紹介します。

(2) 展示作品のご紹介



1 《夜明け》1967年 124.0×124.0 cm 墨、和紙に金箔



2 《朝ぼらけ》1960年頃 90.0×177.0 cm 墨、銀泥、カンバス



4 《Harvest》2010年 90.0×60.0 cm
朱、墨、和紙に銀箔



3 《夢の浮橋》1990年 63.5×90.5 cm リトグラフ、手彩



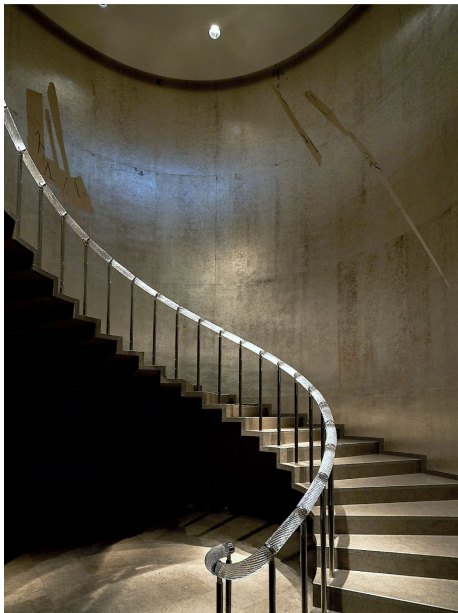
5 《山上焚火》2004年
59.0×44.0 cm 墨、朱、紙

※作者は全て篠田桃紅。画像貸出しはリリース9頁をご覧ください。

（３）智美術館と篠田桃紅作品 — 作家と美術館創設者、菊池智の所縁より



《ある女主人の肖像》1988年頃
(当館、エントランスホール)



《真・行・草》2003年設置
(当館、螺旋階段スペース)

智美術館では2003年の開館当初より、篠田桃紅の作品を空間設計に取り入れ、二点を常設しています。一点は建物玄関を入ったエントランス正面に展示する《ある女主人の肖像》で、もう一点は一階と地下展示室を結ぶ螺旋階段の円形空間に合わせ、壁面全体に直接貼られたコラージュ作品、《真・行・草》です。これらは篠田と美術館創設者、菊池智の所縁により、菊池が館の設立以前から収蔵していた作品で、両者の長年にわたる交流の証といえます。

二人は菊池が建築家の堀口捨己（1895-1984）に茶室設計を依頼した1960年頃に堀口を介して知り合い、交際は半世紀以上にわたりました。出会いの当初より両者は互いが美に対して思いの強い人間であることを認め、芸術をめぐる対話を楽しみました。篠田はその出会いを随筆（「秋くさの庭」、1965年）にも記しています。

当館への二点の作品設置においては、菊池自身が細部まで配置や空間に心を配りました。特に《真・行・草》は、設置場所となる螺旋階段に合わせ既存作品を再構成することを望み、篠田もそれに応じて、屏風の形式であった作品を現在の形に改めました。篠田作品の緊張感ある佇まいは、館の建物に凛とした空気をもたらししています。本展では、作品の発するエネルギーに調和し、呼応するような当館の空間に展示構成し、作品をご覧ください。

■展覧会関連行事

会期中、下記の関連行事を開催いたします※（予約不要、参加費無料。要当日観覧券）

※状況により予定が変更になる場合がございます。最新情報は当館HPをご覧ください。

- ・**ゲスト ギャラリートーク** 6月25日、7月23日の各土曜日、14時より
ギャラリストとして、長年にわたって篠田桃紅の作品と作家自身に関わってきた長尾英司氏をゲストに、ギャラリートークの形式でお話を伺います。

- ・**学芸員による ギャラリートーク**
7月2日、16日、30日／8月6日の各土曜日、14時より
担当学芸員のギャラリートークを開催します。

■ 篠田桃紅略歴

- 1913 大正2年3月28日、旧満州国大連に生まれる。翌年、父の転勤で東京に戻る。
- 1919 この頃、初めて筆と墨に触れる。
- 1935 書を教え始める。
- 1940 初めての個展「書」(鳩居堂、東京)
- 1945 既成の書の形にとらわれない墨による新たな形を描き始める。
- 1953 「日本の建築と書」(ニューヨーク近代美術館、以後アメリカ各地を巡回)
- 1954 「日本現代書展」(ニューヨーク近代美術館)
「サンパウロ市 400 年祭り」日本政府館のために壁書を制作
個展(銀座松坂屋、東京)
- 1955 「ワシントン州国際見本市」日本モデルルームのために壁書を制作
「ヘルシンボール生活文化展」(スウェーデン)日本館のために壁書を制作
「現代日本の書・墨の芸術-ヨーロッパ巡回展の国内展示」(東京国立近代美術館)
「日・米抽象美術展」(東京国立近代美術館)招待出品
- 1956 個展 [抽象](養清堂画廊、東京)
渡米、ニューヨークに滞在
個展(スエゾフ・ギャラリー、ボストン)
- 1957 個展(バーサ・シェイファース・ギャラリー、ニューヨーク)
個展(タフト美術館、シンシナティ)
個展(アート・インスティテュート・オブ・シカゴ)
個展(ギャラリー・ラ・ユヌス、パリ)
- 1958 個展(ジェファーソン・プレイス・ギャラリー、ワシントン D.C.)
帰国
「抽象絵画の展開展」(東京国立近代美術館)
- 1959 「日本美術の伝統と革新 - 白隠、志功、桃紅、南谷 4 人展」
(クレーラー・ミュラー美術館、オテルロー、オランダ)
個展(パレ・デ・ボザール、ブリュッセル)
- 1960 フィラデルフィア美術館から来日した刷師アーサー・フローリーの勧めでリトグラフを制作し始める
- 1961 「第6回サンパウロ・ビエンナーレ」招待出品
「ピッツバーグ国際現代絵画彫刻展」(カーネギー・インスティテュート)招待出品
「現代日本絵画展」(芸術アカデミー、ベルリン)
- 1962 「現代日本の書:意味と記号展」(ドイツ巡回)
「近代日本の造形 絵画と彫刻」(東京国立近代美術館)
日南市文化センター講堂に緞帳を、ホワイエのために陶壁を制作(宮崎)
- 1964 国立代々木競技場のために壁画を制作(東京)
- 1965 個展(ベティ・パーソンズ・ギャラリー、ニューヨーク) 68 年、71 年、77 年も開催
国立京都国際会館2階ロビーのためにレリーフと壁画を制作
- 1966 個展(ベルリン市庁舎)
個展(フランネル・ギャラリー、東京)
「カナダ・モントリオール万国博覧会」日本館のために壁画を制作
個展(レツィルクザムト・フォン・ベルリン)
第1回ジャパン・アート・フェスティバル(ニューヨーク、シカゴ等巡回)
- 1967 「ROSC '67(第1回展)世界 50 人展」(ロイヤル・ダブリン・ソサエティー)

- 1970 京王プラザホテル貴賓室、次特別室、ロビー、客室に屏風とリトグラフを制作(東京)
- 1971 「ROSC '71、10 人の作家展-デュビュッフェ、アルトウング、デ・クーニング、ミラレス、ミロ、ピカソ、篠田、スーラージュ、タピエス、ザオ・ウォーキー」(ロイヤル・ダブリン・ソサエティー)
- 1972 個展(日本橋高島屋、東京)
- 1973 「戦後日本美術の展開 - 抽象表現の多様化」(東京国立近代美術館)
- 1974 増上寺大本堂、ロビーのために壁画を、道場のために襖絵を制作(東京)
- 1976 個展(トールマン・コレクション、東京)
- 1977 ワシントン駐米大使公邸のために壁画を制作
- 1978 個展(高島屋美術画廊、岐阜)
- 1979 ホテル・ヴィトシャのために壁画を制作(ソフィア、ブルガリア)
随筆集『墨いろ』で第 27 回日本エッセイスト・クラブ賞受賞
「岡田・篠田・津高 - 20 世紀日本抽象絵画三人のパイオニア」
(フィリップス・コレクション、ワシントン、以後アメリカ各地を巡回)
- 1980 芝増上寺大本堂にて個展「創造と伝統」、絵画と版画を制作
(トールマン・コレクション主催、東京)
- 1982 個展「篠田桃紅展 銀と墨」(ギャラリー・ところ、東京)
- 1984 彫刻家との二人展 Toko Shinoda and Elizabeth de Cuevas (ブルース美術館、コネチカット州)
- 1986 ノーベル賞のための「オマージュ・オ・ノーベル」(オリジナル・リトグラフ)を刊行
個展「TOKO SHINODA RECENT WORKS -Brush Paintings-」
(ギャラリー・ところ、東京)
個展「篠田桃紅 ドローイング展」(Galerie 412、東京)
- 1988 個展「篠田桃紅 新作展」(養清堂リフレクション・ギャラリー、東京)
- 1989 個展「篠田桃紅展」(西武美術館主催、有楽町アート・フォーラム、東京)
「絵画と文字:描かれた文字 / 書かれた絵」(北海道立函館美術館)
- 1991 個展(高島屋美術画廊、岐阜)
- 1992 「書と絵画の熱き時代・1945~1969」(O 美術館、東京)
個展「篠田桃紅 1982-1992 版画展」(ギャラリー・ユマニテ・名古屋 2、名古屋)
回顧展「篠田桃紅 時のかたち」(岐阜県美術館)
- 1993 トールマン・コレクションによる回顧展「篠田桃紅 - 新たなる認識」
(版画集 篠田桃紅『A New Appreciation』(タトル出版)刊行記念(銀座三越、東京)
御所 御食堂のために絵画を制作
- 1994 「戦後日本の前衛美術」(横浜美術館、以後グッゲンハイム美術館、サンフランシスコ近代美術館へ巡回)
個展(シンシナティー美術館)
国際協力事業団大阪国際センターのために壁画を制作(大阪)
岐阜県民文化ホール未来会館のために絵画を制作
川崎市国際交流センターのために絵画を制作
- 1995 「戦後文化の軌跡 1945-1995」(目黒区美術館、他巡回)
- 1996 福岡 RKB 放送センター、ロビーに壁画を制作
シンガポール・国立アート・ミュージアム初の日本人作家による個展「TOKO SHINODA - VISUAL POETRY」(トールマン・コレクション主催)
- 1997 個展(鎌倉画廊、東京)
個展(画廊 光芳堂、岐阜。2002 年も開催)
- 1998 個展(アネリー・ジュダ・ギャラリー、ロンドン)

- 1999 東京文化会館の名称ロゴを制作
個展「篠田桃紅展 新作ドローイング、銅版画」(養清堂画廊、東京)
ルクセンブルク大公妃殿下のご訪問を受ける
- 2000 東邦ガス本社のために壁画を制作(名古屋)
- 2001 草月会館にて個展(25年間のトールマン・コレクション発行版画を集めた回顧展、東京)
個展「境を超えて」(モルガン・スタンレー・ディーン・ウィッター・ジャパン主催
恵比寿ガーデンプレイス、東京)
個展「篠田桃紅近作展」(ギャラリー・ユマニテ、東京)
個展(光玄、名古屋)
- 2003 90 歳記念個展「篠田桃紅 朱よ」(トールマン・コレクション主催、原美術館、東京)
- 2005 個展「墨いろに心を託した作家のあゆみ」(トールマン・コレクション主催、新生銀行本店
20 階ホール、東京)
- 2009 個展(トールマン・コレクション主催、蘭クラブ、北京)
- 2011 個展 リヒテンシュタイン・グローバル・トラスト(LGT 銀行)香港開業 25 周年記念個展
(トールマン・コレクション主催、エクステンジ・スクエア内ロタンダ、香港)
- 2012 個展「Guided by the Brush」(トールマン・コレクション、ニューヨーク)
- 2013 個展「50 Prints & Paintings, Toko Shinoda at 100」(トールマン・コレクション監修、ポートランド日本
庭園、オレゴン州)
個展「Trailblazer」(ジャパソサエティ、ニューヨーク)
回顧展「篠田桃紅 百の譜」(岐阜現代美術館・関市立篠田桃紅美術空間・岐阜県美術館・画廊光
芳堂、岐阜)
100 歳記念個展「篠田桃紅の墨象」(トールマン・コレクション共催、智美術館)
- 2015 「Breaking Barriers – Japanese Women Print Artists 1950-2000」(ポートランド・アー
トミュージアム、オレゴン州)
『103 歳になってわかったこと 人生は一人でも面白い』刊行(幻冬舎)
- 2016 「トールマン・コレクションの篠田桃紅百三景」(コンラッド東京)
- 2017 「昔日の彼方に」(トールマン・コレクション共催、智美術館)
- 2018 「篠田桃紅 とどめ得ぬもの 墨のいろ 心のかたち」展(上田市立美術館・他、各地を巡回~2021)
「篠田桃紅展 過去・現在・未来」(トールマン・コレクション主催、大本山 増上寺)
- 2021 3 月 1 日死去、107 歳

■パブリック・コレクション (抜粋)

■メトロポリタン美術館 (ニューヨーク)、■グッゲンハイム美術館 (ニューヨーク)、■ボストン美術館、■オル
ブライト・ノックス美術館 (ニューヨーク)、■ブルックリン美術館 (ニューヨーク)、■アート・インスティ
テュート・オブ・シカゴ、■シンシナティ美術館 (オハイオ州)、■フォッグ美術館 (ハーバード大学付属、マ
サチューセッツ)、■スミソニアン・アーサー・M・サックラー・ギャラリー (ワシントン D.C.)、■スミス大学
美術館 (マサチューセッツ州)、■大英博物館 (ロンドン)、■フォルクヴァング美術館 (エッセン、ドイツ)、
■国立ベルリン東洋美術館、■クレラー・ミュラー美術館 (オテルロー、オランダ)、■シンガポール・国立ア
ート・ミュージアム■ハーグ市立美術館 (デン・ハーグ、オランダ)、■ティコティン日本美術館 (ハイファ、
イスラエル)、■ロックフェラー財団 (ニューヨーク)、■フォード財団 (ニューヨーク)、
■ルクセンブルク王室、■増上寺 (東京)、■宮内庁、■駐米日本大使公邸 (ワシントン D.C.)、
■日本銀行 (東京)、■東京アメリカン・クラブ、■京都迎賓館、
■関市立篠田桃紅美術空間 (岐阜県)、■岐阜県美術館、■富山県立近代美術館、■東京国立近代美術館、■原
美術館 (東京)、■菊池寛実記念 智美術館 (東京)

■本展覧会について広報媒体へ掲載、取材をいただく場合、本リリースに紹介されている作品画像をデータでお貸し出しいたします。申込書のご希望の図版に☑を記し、用紙を返信のうえ、お問い合わせください。ご紹介いただく記事、番組内容については、情報確認のため校正の段階で事務局までお知らせください。お貸出しする画像データは本展覧会終了をもって使用期限とさせていただきます。作品の画像を1点以上ご掲載の上、本展をご紹介くださる媒体に対し、本展ご招待券を読者プレゼント用に提供いたします。申込書、所定の欄に招待券希望の旨を明記してください。

掲載に関するお問い合わせ先 菊池寛実記念 智美術館（担当：足立）

TEL.03（5733）5131 FAX.03（5733）5132 <http://www.musee-tomo.or.jp/>

掲載・画像貸出申込書

返信先 FAX：03－5733－5132

●貴社基本情報

会社名：	
担当部署：	担当者名：
住所：	
電話	ファックス：
E-MAIL：	

●媒体情報

新聞 雑誌	媒体名：	
	発行日：	発売日：
TV ラジオ	媒体名：	
	放送日：	放送時間：
ネット	URL：	

●画像貸出リスト ※キャプションには作者（篠田桃紅）/作品名/制作年/撮影者を必ず入れてください。

希望作品に☑	作品キャプション
☐	1 《夜明け》1967年 124.0×124.0 cm 墨、和紙に金箔（撮影：尾見重治、大塚敏幸）
☐	2 《朝ぼらけ》1960年頃 90.0×177.0 cm 墨、銀泥、カンバス（撮影：尾見重治、大塚敏幸）
☐	3 《夢の浮橋》1990年 63.5×90.5 cm リトグラフ、手彩
☐	4 《Harvest》2010年 90.0×60.0 cm 朱、墨、和紙に銀箔
☐	5 《山上焚火》2004年 59.0×44.0 cm 墨、朱、紙

●読者プレゼント用チケット希望*：

☐5組 10名様

☐10組 20名様

*上記チケットの発送は5月中旬以降となります。

プレスプレビューのご案内

展覧会の内覧会に先立ち、プレスの皆様にむけてプレビューを開催し、展覧会の趣旨、作品などについてご説明申し上げます。

ご多用のなか恐縮に存じますが、どうぞご出席くださいますようお願い申し上げます。

菊池寛実記念 智美術館

プレスプレビュー 2022年6月17日（金） 13:15 ～

13:15 ～13:45 展覧会の見どころをご説明申し上げ、作品解説などギャラリートークを行います。
監修のザ・トールマン コレクションも同席される予定です。また、展覧会場内をご撮影いただけます。

13:45 ～14:00 皆様からのご質問にお答えいたします。

会場： 菊池寛実記念 智美術館 〒105-0001 港区虎ノ門 4-1-35 西久保ビル B1
・日比谷線・神谷町駅出口 4b より徒歩 6 分
虎ノ門ヒルズ駅出口 A1、A2 より徒歩 8 分
・南北線・六本木一丁目駅改札口より徒歩 8 分
・南北線／銀座線・溜池山王駅出口 13 より徒歩 8 分
・銀座線・虎ノ門駅： 出口 3 より徒歩 10 分

ご出席いただける場合は、下記フォームにご記入の上、FAX にて

ご返信下さい。 **返信先 FAX 03-5733-5132**

会社名：

担当部署、氏名

住所：

電話：

FAX：

Email